

7月23日回支部代開催

国鉄当局は、自民党交通部会の「国鉄再建のための方策（案）」を基本方針とし、いよいよ国鉄労働運動解体のための本格的・具体的攻撃を開始してきた。動労千葉は、7月23日、第10回支部代表者会議を開催し、この動きを中心とした情勢認識の意志統一をかちとるとともに、強固な反撃の体制をつくりだす具体的取組みを決定した。

国鉄をめぐる情勢Ⅱ臨調攻撃の現段階Ⅱ

第二臨調の基本答申が7月下旬に予定されているが、これにあわせて6月25日、自民党交通部会が「国鉄再建のための方策（案）」を発表した。

この「方策（案）」なるものは、「85年度までに合理化が達成できなかった場合には」「国鉄を『民営・分割』する」とドウ喝したうえで、徹底した合理化と職場規律の厳正化攻撃を強行することを基本方針として打ち出している。徹頭徹尾、反動的内容で貫かれた、国鉄労働運動解体のための攻撃である。

国鉄当局は、この自民党が作成した「方策（案）」に双手をあげて賛成し、「これを国鉄当局の方針とする」ことを決定し、なりふりすてて国鉄労働運動解体にむけた具体的な攻撃に全力をあげて突入してきている。

その突破口を意味するものが、6月末を期限としてかけてきた「ブルトレ検査係添乗旅費返済請求」問題で、国鉄当局は返済に応じていない（全く当然！）国労・全動労などの組合員を相手どって7月15日「返済請求訴訟」に訴えるという暴挙を行い、更にふみこんで、7月19日には「現協こそ職場荒廃の元凶」と称して「現場協議制度の改悪」を提案するという矢継ぎ早の反動攻撃にうって出た。

これは決定的に重大な攻撃であり、ここで「一歩をゆずる」ことは、労働組合の全てを自らあけ渡してゆくことに道を開いてゆくものである。この攻撃は、当局の「労働組合を認めない」「職場の力関係を暴力的に破壊し、当局の支配権をうち立てる」という、反動的な居直った方針・決意を如実に示すものである。

臨調・当局の先兵Ⅱ動労「本部」革マル一掃なくして、労働者の未来は無い

国労中央は、これまで「正すべきは正そう」と、基本において屈服路線をとってきたが、現場からふき上る怒りと反撃の闘いの中で、ブルトレ問題に象徴的に表われた当局の「団交拒否」「国労否認」とまでいう理不尽な攻撃に対して反撃に立ち上った。この問題は、全面対決的要素を不可避的にはらんでいるものである。

このような中で、最も反動的で最も醜悪で反労働者の裏切りを率先して買っているのが、他

ならぬ動労「本部」革マル分子である。

彼らは、「ブルトレ問題」で率先して「あれはヤミだから全面返済すべきだ」と主張して、なんと鉄労と一体となって完全に当局の側に立って国労を攻撃し、一人平均13万円・動労組合員七四〇人（九六二〇万円）の返済に応じることを強制しているのにひき続いて、またもや国労等に敵対して公然と鉄労と手を結んで、「現協廃止」の当局提案を受けるといふ断じて許すことのできない裏切りに走ったのである。

この決定的な事実こそ、まぎれもなくあの超反動路線Ⅱ「働こう運動」が必然的にもたらす破綻と裏切りの行きつく先である。

と同時に、この自民党・国鉄当局の先兵Ⅱ動労「本部」革マル反動分子と対決し、これを粉砕・一掃することなしに、現下の攻撃をはねかえし国鉄労働者の未来を守りぬいていくことはできないという事を、誰の眼にも今や鮮明に照し出したのである。

当面する闘いの目標と具体的取組み

【当面する闘いの目標】

① 第二臨調基本答申―自民党「方策（案）」反対、国鉄労働運動解体攻撃粉砕。

② 仲裁・決定完全実施。

③ 権力―当局―動労「本部」革マル一体となった組織破壊攻撃粉砕。反弾圧闘争の強化。

④ 57.11ダイ改阻止にむけての闘争体制の確立。

⑤ 反戦・反核―三里塚闘争強化。10.11三里塚集会。

【具体的取組みについて】

① 第二臨調基本答申―自民党「方策（案）」粉砕、57.11ダイ改阻止、仲裁・決定完全実施を要求する総決起集会を8月上旬千葉運転区で開催する。

② 前記目標にむけ全組合員の意志統一をはかるため、8月中を目途に全支部で職場集会―学習会を開催し、闘争体制の確立をはかる。

③ モデル3支部の職場での取組みを一層深化させ、更に全支部への拡大をはかる。

④ 国労との共闘強化を積極的に推進する。

⑤ 県労連の要請に応え、8月ヒロシマ反戦闘争に積極的に参加する。

⑥ 来年4月予定される統一地方選挙に中江顧問を船橋市議会議員候補として擁立し、その当選にむけての取組みを開始する。

⑦ 動労千葉第7回定期大会は、9月30日～10月1日、千葉市・千葉グランドホテルで開催する。

臨調基本答申粉砕 57.11ダイ改悪反対の体制を確立しよう！

三里塚・ジェット闘争貫徹／「国鉄35万人体制」粉砕！